

甲状腺外科草子 15 名作と好きな本の狭間で

杉野 圭三

医学部学生と読書

臨床実習に来る医学部学生と話をすると、驚くことに10人中の1人か2人は「本をあまり読まない、好きな本がない」と言う。サマセット・モームによる『世界の十大小説』を読めとは言はないが、好きな本の2つや3つはあるのが「大人」として当然のことだと思う。

世界の十大小説

ちなみに、モームの選んだ『世界の十大小説』を以下に列記する。

1. トム・ジョーンズ (フィールドینگ)
2. 自負と偏見 (オースティン)
3. 赤と黒 (スタンダール)
4. ゴリオ爺さん (バルザック)
5. デヴィッド・コパーフィールド (ディケンズ)
6. ボヴァリー夫人 (フロベール)
7. 白鯨 (メルヴィル)
8. 嵐が丘 (エミリー・ブロンテ)
9. カラマーゾフの兄弟 (ドストエフスキー)
10. 戦争と平和 (トルストイ)

「名作と呼ばれる小説＝好きな小説」ではない。名作と評価されない大衆小説や冒険小説の中にも多くの好きな本がある。『ゴリオ爺さん』は恥ずかしながらまだ読んでないので評価不能だが、巷間で名作と評価される『戦争と平和』、『赤と黒』、『嵐が丘』などを私の好きな本リストに入れることは、残念ながらできない。

私の好きな本：

①モンテ・クリスト伯 (アレクサンドル・デュマ、大久保和郎訳、角川文庫、絶版)

私の最も好きな小説で、挫折、絶望、再起、復讐、寛容、希望、などすべての要素を含んだ最高の小説である。

現在出版されている岩波文庫版は山内義男訳だが、角川文庫版の方が読みやすい。手元の角川文庫本は、昭和41年発行、140円と表記されている。作品中にある「待て、そして希望せよ！」は私の好きな言葉である。



左：岩波文庫、 右：角川文庫（絶版）

デュマの「三銃士」も好きな本である。主人公「ダルタニヤン」が近衛銃士隊に入り、成長していく物語で、続編の「20年後」、「鉄仮面」へと連綿として続く長い物語なので割愛する。

②デヴィッド・コパーフィールド

(C.ディケンズ、中野好夫訳、新潮文庫)

中学2年生の時に徹夜して読んだ記憶がある（昭和42年発行、140円）。この作品は作者の自伝的要素が含まれ、途中がやや冗長と感じられるかもしれない。岩波文庫からも発行されているが、中野好夫訳の方がはるかに読みやすい。

ちなみに、岩波文庫の市川又彦訳の本は絶版なので全六冊セットでは6,000円以上の高値であるが、神田の古本屋で探し回り100円で入手したものである。



左：岩波文庫、市川又彦訳（昭和28年、120円）

中：岩波文庫、石塚裕子訳（現行版）

右：新潮文庫、中野好夫訳（昭和42年、140円）

ディケンズの多くの作品の中で、最も有名で万人受けし、完成度の高いのは『クリスマス・キャロル』かもしれないが、この小説は個人的思い入れが強く絶対にはずせない。

③自負と偏見 (ジェイン・オースティン、中野好夫訳、新潮文庫)

岩波文庫版は『高慢と偏見』のタイトル（富田彬訳）だが、「Pride」を「高慢」と表現とするより「自負」と表現する方

が的確である。新潮文庫版は長年、大翻訳家である中野好夫訳だったが、最近小山太一による新訳が出た。こちらも、中野好夫訳と同じく読みやすい本になっている。岩波版は冗長でやや退屈で、訳者により原著の印象大きく変わる。



左：岩波文庫、中：新潮文庫（旧）、右新潮文庫（新）
映画『ユー・ガット・メール』では、頻繁にこの小説の内容が引用されている。



ユー・ガット・メール（ノーラ・エフロン監督、1998）
監督はこの本がよほどお気に入りとも見える。この本を読んでいなければ、映画の面白さも半減である。

④太陽系帝国の危機（R.A.ハインライン、後にダブル・スターに改名、創元推理文庫）

ハインラインには、『夏への扉』、『宇宙の戦士』、『人形使い』など数多くの名作があるが、その中で最も好きな本である。



スピード感とウイットに溢れ、SF的要素より、一般小説としての面白さの方が際立ち、完成度の高い小説である。

⑤白百合を赤い薔薇に（寓詩物語）、（ケラー、河出書房、岩波文庫、絶版）

謹厳実直な学者が研究に疲れた時、偶然見つけた書付に導かれるように出かけた旅先で機知に富む美しい才女と出会い、

恋愛と結婚の理想像について、様々に交わす軽妙多彩な連作物語である。タイトルの「白百合を赤い薔薇に」変える方法がカギだが、種明かしは無粋なのでやめておこう。



河出書房版



ケラー（1819-1890）

⑥晩夏（シュティフター、ちくま文庫）

美しい郊外の自然の中で静かに流れる時間と登場人物の交流を描いた、ドイツ語で書かれた最高傑作とされ、ニーチェやトーマス・マンが絶賛する小説である。



晩夏（ちくま書房）、シュティフター（1805-1868）

しかし、一方では冗長で退屈であり最後まで読み通した人には「ポーランドの王冠を進呈しよう」とまで酷評されるぐらい評価は分かれる。最後まで読破した人しか評価できない小説とだけいっておこう。

⑦ケインとアベル（J・アーチャー、新潮文庫）

J.アーチャーには「大統領に知らせますか」など多数の著書がある。



この本は特に波乱万丈の物語で、「ロスノフスキ家の娘」は続編になる。移民の子アベルと銀行家一族のケインの人生が交錯する時に家族の運命も変わり、ドラマが生まれる。

⑧宮本武蔵 (吉川英治、六興出版)

子供の頃、吉川英治の「三国志」や「水滸伝」などに夢中になったものである。数多くのベストセラー小説の生き生きとした描写力は他の作家の追随を許さない。



左：宮本武蔵 (六興出版、昭和 32 年、190 円)

右：映画宮本武蔵 (1954 年、稲垣浩監督)

「宮本武蔵」は国民的大ベストセラーで、映画化も何度かされているが、1954 年の映画は三船敏郎主演の豪華版で、「お通」役の八千草薫の美しさが光っていた。我が家にある六興出版の宮本武蔵は年代からみて父の所有物で、父から子、子から孫に伝えられて行く「家宝」となっている。古びても捨てることはできない。

⑨長い坂 (山本周五郎、新潮文庫)

山本周五郎には短編、長編を含め数多くの著作がある。



黒澤明監督の「赤ひげ」、「椿三十郎」、大河ドラマの「縦ノ木は残った」など映像化された有名作品も数えきれない。

「長い坂」は下級武士の少年が学問と武芸に励み、一步一步自分の力量で藩制改革を行い、出世への長い坂を上っていく物語である。アメリカ人が好きそうな単純明快な筋書きである。



ドラマ「長い坂」(中村吉右衛門、星由里子、1969)

⑩舟を編む (三浦しおん、光文社文庫)

本屋大賞を 2012 年受賞したベストセラーで、この作者に対する評価を大いに上げた小説である。作者は岩波書店や小学館の辞書編集部を訪れ、用語や紙質の選定に至る細部まで取材したようで、辞書を作る作業がいかなるものかを初めて知った。主人公の「馬締光也」と「林香具矢」、「松本先生」、「西岡正志」など周囲の人物の性格描写や交流が面白い。



文庫版には特別付録があり、中身は見てのお楽しみ!

これらの本の主人公は悲惨な結末を迎えていない。「ベストセラー小説を書くコツはハッピーエンドで締めくくることである」と、述べる人もいる。単細胞の私も同意である。

まだまだ多くの好きな本がある。キリがないので清少納言の言葉で筆を擱く。

嬉しきもの：未だ見ぬ物語の多かる。又、一つを見て、いみじう懐かしう覚ゆる物語の、二つ、見つけたる。心劣りする様も、有りかし。

訳 嬉しい物：まだ読んだことのない物語がたくさんあること。第一巻を読んだら面白くて、その第二巻を見つけた時は嬉しい。ただ思ったより面白くなくガッカリすることもある。(枕草子 258 段)

広島市医師会だより、Vol. 597, 62-63. 2016, 新春随想の掲載内容を追加、改編しました。

(一甲状腺外科医の徒然なる随想)

2022 年 1 月 19 日